

令和4年度
(2022年度)

事業計画書



学校法人巨樹の会

目 次

1. 学校法人の概要	1 ~ 2
2. 基本方針	3
3. 教育方針	4
4. 教育計画	5 ~ 6
5. 設置する学校・学科等	7
6. 中期計画	8
令和健康科学大学	8 ~ 9
福岡看護専門学校	9 ~ 10
小倉リハビリテーション学院	10 ~ 13
下関看護リハビリテーション学校	13 ~ 14
八千代リハビリテーション学院	14 ~ 15
福岡和白リハビリテーション学院	15 ~ 16
福岡水巻看護助産学校	16 ~ 17
武雄看護リハビリテーション学校	17
7. 各校の事業計画	18
令和健康科学大学	19
福岡看護専門学校	20
小倉リハビリテーション学院	21
下関看護リハビリテーション学校	22
八千代リハビリテーション学院	23
福岡和白リハビリテーション学院	24
福岡水巻看護助産学校	25
武雄看護リハビリテーション学校	26

1.学校法人の概要

基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、助産師教育を含む姉妹校専修学校7校とともに、新たな歴史を刻んで参ります。

建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

教育理念

人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛と自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池真澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛と自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校7校の卒業生は**約15,000人を超え**、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開校 看護学部 看護学科 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科

2. 基本方針

令和4年度 学校法人巨樹の会 基本方針

I. 大学設置法人へ組織変更したことによる学校法人の更なるガバナンス機能の強化

1. 業務の適正を確保するための内部統制システムの実施
2. 中長期計画を策定し事業計画と連動したPCDAサイクルの展開
3. 令和健康科学大学大学院看護学研究科(仮称)設置申請に向けた取り組み
4. 八千代リハビリテーション学院の定員数増員に向けた取り組み

II. 継続事業

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
3. ICT環境の運用
4. 退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）
5. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
6. 定員充足への取り組み
7. 地域連携の充実にむけた社会貢献の推進
8. 業務効率化の促進

III. その他

1. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
 - 1) メンタルヘルスケア体制を充実させ、教職員に対する心のケアの充実及び健康管理を推進。
 - 2) ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現。
 - 3) 法改正による育児休業を取得しやすい雇用環境の整備。
2. 関連グループのスケールメリットを生かした学校運営の展開
 - 1) 各校が持つ様々な情報を共有し、ノウハウを生かした活動を展開
 - 2) 経費削減と効率化の実現

3. 教育方針

令和4年度 学校法人巨樹の会 教育方針

1. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
 - (1) 実践能力の強化に向けてた教育体制作り
 - (2) 一人ひとりを大切にた教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
 - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力を育成する

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
専任教員(NS)の継続研修参加促進
- 3) 大学におけるFDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

3. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

- 1) 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
- 2) 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

4. 大学及び専門学校職員の教育の充実を図る。

学校法人の職員として、学生を支援する立場で学校運営を考えるためのSDを推進する。

5. 福岡看護専門学校、福岡和白リハビリテーション学院2校の閉校準備と同時に他専門学校の再構築、並びに、大学院設置準備に取り組む。

- 1) 閉校する専門学校の在校生の教育を教職員全員で支援する
- 2) 八千代校の定員増員に向けて準備を行う
- 3) 大学院開設のために、準備室を配置し申請準備に取り組む

4. 教育計画

I. 教育の強化

1. 自ら状況判断できる看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を育成するために、「主体的に学ぶ」という姿勢を育む教育を実践する。

- 1)知識注入型の教育ではなく、思考する教育方法を取り入れた講義、演習、実習に取り組んでいく。
- 2)様々な学生指導において、指示待ちではなく自分で考えさせる指導方法を実践する。
- 3)学生のやりたいという思い(モチベーション)を大切にした教育を工夫する。
- 4)自分にも出来るというような達成感を感じられる教育方法、学生を認める関わりを実践する。

2. ICT教育を全面的に取り入れた授業運営を通して、カリキュラム評価を行い、カリキュラムを運営する。

- 1)ICT教育の徹底を図り、教育効果を高める教育方法の向上を目指し運営する。
- 2)カリキュラムの運営を通して、講義・演習・実習における評価を検討し、教育内容・方法・技術の強化を行い運営する。

II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。

- 1)学生の主体性を尊重した教育的な関わりをもち、学生の支援体制をつくる。
- 2)教員自ら積極的に挨拶を行い、学生との関わりを機会をふやし自ら学生のモデルとなる。
- 3)学校カウンセラー・健康担当医と連携して、学生の学業継続を支援する。
- 4)教科外活動、課外活動などを通して、学生間の交流を図る。
- 5)早めの就職指導を行い、卒業生の就職率を高める。
- 6)卒後3年間の臨床経験を通して実践力を身につけることができる卒後教育が充実した病院への就職を斡旋する。

III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。

- 1)昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
- 2)各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

IV. 入学生確保について

1. 入学生の確保を強化する。

- 1) 広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2) 各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。
看 護: 指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問
数の拡大、複数回の訪問
助 産: 卒業生、在校生勤務地を活用した募集活動
全国区への募集、関連施設(関東含めて)へのアプローチ
PT・OT: 奨学金制度の充実、進路指導院へのアプローチ、複数回の学校訪問、
充実したオープンキャンパスの開催
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実戦

V. 管理体制の強化

1. 「職業実践専門課程」の継続的な認定を目指す。

- 1) 企業等との連携を図り、「教育課程編成委員会」を参考にカリキュラムの改善を行う。
- 2) 「学校関係者評価」を実施し、教育における教育内容・教育方法を充実する。
 - (1) 授業・演習・実習指導等についての授業評価を計画・実施して、自己の指導の指針とする。
 - (2) 学校関係者評価の結果について外部公表を行い、各校改善を行う。

2. 専任教員キャリア別達成目標を活用し、教員の質の向上に努める。

- 1) 教職員の適正人数の配置を行う。
(人員配置、実習指導教員の強化、図書司書の配置)
- (1) キャリア別に目標設定することで、教員自身の本校での位置づけを明確にし、主体的に判断・行動できる。
- (2) 教員をサポートする研修体制の充実を図る。
 - ① 関連学校における中央研修への積極的な参加
 - ② 各専門領域での専門性を向上するための研修の支援体制の整備

3. 円滑な学校運営を行う。

- 1) ワークライフバランスを考慮した業務内容の見直し、業務改善を行う。
 - (1) 学科ごとに業務内容のマニュアル化を進めていく。
 - (2) 会議運営について、組織的・効果的な実施を図る。
 - (3) 業務改善を行い、残業時間を短縮する。
- 2) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに、情報セキュリティ対策を強化する。

5. 設置する学校・学科等

大学

令和4年4月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	看護学部	看護学科	4年	80名	320名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	320名
			作業療法学科	4年	60名	240名

専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	—	100名
		※令和4年度以降学生募集中止				
		看護学科	2年課程 夜間定時制	3年	—	50名
※令和3年度以降学生募集中止						
看護学科	2年課程 通信制	2年	—	—	—	
※令和3年度以降学生募集中止						
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	—	160名
		※令和4年度以降学生募集中止				
		理学療法学科	夜間コース	4年	—	80名
※令和3年度以降学生募集中止						
作業療法学科	昼間コース	3年	—	80名		
※令和4年度以降学生募集中止						
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
		助産学科	1年課程 全日制	1年	16名	16名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

助産院

施設名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営

6. 中期計画（令和4年度～令和9年度）

学校法人巨樹の会では、2022年(令和4年)4月の令和健康科学大学開学を機に、2022年度を初年度とする2027年までの6年間で第1期として中期計画の立案を行う。

第1期中期計画では、「教育」「研究」「地域連携・社会貢献」「組織運営」「施設設備」「財務基盤」の6つの項目について、法人としての方針及び推進事業を設定し、建学の精神及び教育理念に基づき、各学校の単年度の事業計画と連動させることにより、確実に計画を推進していく。

この事業計画を着実に実行し、学校法人巨樹の会の各学校が、将来にわたって教育・研究・医療を通じた社会貢献を推進し、地域社会に必要とされる高等教育機関として発展し続けるよう全職員一丸となって邁進する。

1. 教育

大学及び専門学校が目指す要請する人材像に向けた室の高い教育活動を目指す。

2. 研究

臨床実践に寄与できる研究を邁進する。

3. 地域連携・社会貢献

地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う。

4. 組織運営

理事長を中心とした経営を行うためのガバナンス体制の強化

5. 施設設備

質の高い教育を目指すための計画的な施設設備の拡充及び整備

6. 財務基盤

学生の確保

効率化による経費の適正化

令和健康科学大学

1. 教育

多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力を基盤とし、倫理観及び探究心を統合した実践力を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職を養成するための教育課程を編成し、実施する

2. 研究

健康科学の学問的発展を目指し、幅広い観点から実践的研究を推進する。

3. 地域連携・社会貢献

地域の現状に沿った活動を展開し、開かれた大学として地域の人々へ学びの場を提供するとともに地域住民の健康増進と健康な生活づくりを推進する

4. 組織運営

学長が、学部長等との緊密な連携により、自らのリーダーシップを発揮し、教育研究面の管理運営を執り行う体制を構築するとともに、理事会との緊密な連携のもと将来構想等の検討を行なう

5. 施設整備

施設設備の不断の点検を行い、質の高い教育研究の基盤となる施設設備の充実を図る。

6. 財務基盤

学生獲得のため広報活動を充実させるとともに、経費の効率化を図る

福岡看護専門学校

1. 教育

- 1) 主体的に学ぶ学生を育成するために教育活動の創意工夫を図る
- 2) 看護実践力の向上のため、臨床判断能力の育成につながる専門性を高める教育活動をめざす

2. 地域連携・社会貢献

地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う

3. 組織運営

- 1) 事業計画に沿い、適正な学校運営を実施する
- 2) 閉科・閉校を円滑に行う

4. 施設整備

施設設備を見直し、計画的に整備を実施する

5. 財務基盤

適切な予算計画を立案し、運用する

小倉リハビリテーション学院

1. 教育(全5項目)

実践力、主体性を身に付ける教育の体制づくりを一貫して行い、卒業後も自ら成長を続けることができる人材を育成することができるよう、学院教育力を向上させる

【①教育手法の工夫】

- 1) アーリーエクスポージャー（早期体験学習）の導入により、早期より職業意識を強化することで、基礎学習の動機づけを強化する。また、実技面の重要性を知り、学内の実技に率先して取り組むような動機づけを行う
- 2) 各演習系授業では演習を取り込んだ講義を充実させて、より実践的に学べるようにする
- 3) 1～3年次の段階的な問題解決型学習(Problem Based Learning:PBL)、客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination:OSCE)を実施する
- 4) 5校の教材・試験等データの共有による連携を図り、教材の充実や自校の能力評価に客観性を持たせること。また、教員と学生共に競争心を持たせる
- 5) 学院と実習施設の教育連携を図る
- 6) セミナーと教材の工夫を継続する

【②教員の教育力育成】

- 1) 最新知識の導入を積極的に行い、技術や情報の変化に対して常に対応できる状態にする
- 2) 教員間の授業連携を行い、授業手法や教材を見直す環境にする
- 3) 教員と現場の臨床交流を行い、連携強化と、教員の臨床視点を維持することで授業内容や実習指導の見直しを図る
- 4) 教育学会へ年1回以上の参加と、新たな教育手法を導入するように研鑽を積む
- 5) 関連講習会、中央研修へ参加する

【③教育方法の準備と実践】

- 1) ICT教育の経時的実践と更新を行う
- 2) 教育手法の修正サイクルを確立する

【④学生支援】

- 1) 学生支援体制の充実を図る
- 2) 学内生活における周囲との良好な関係性を確立する
- 3) 就職100%へ支援体制を確立する

【⑤国家試験合格 100%水準の継続】

- 1) 国家試験対策セミナーと教材を充実させる
- 2) 教員の国家試験対応分野を拡大する。全分野を全教員が対応できるようにする

2. 研究

医療や教育の発展に貢献する研究を推進し、教員の最新知識・技能の習得と高度な実践力を有する専門職者を養成する

【研究基盤の構築】

- 1) 学会や研究情報の発信や、情報を整理し、教員が参加しやすい環境を作る
- 2) 教員が専門性を持ち、学会へ所属し、参加または発表の機会を作る
- 3) 研究環境や計画を立案し、発表計画を立てる

3. 地域連携・社会貢献(全3項目)

本学院の有する教育の将来性・可能性を活かし、その促進につながる地域連携を実現する

【①近隣の施設、中学院、高等学院への人材派遣（部活動支援や職業体験）などの地域貢献】

- ・地域連携を積極的にかつ効率的・効果的に促進させるために、地域との連携強化を進め、事業立案を進める

【②学院の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献】

- ・中長期計画に基づいた「学生募集」「地域人材育成」「生涯学習」「自治体交流」の推進につながる本学事業の立案を進める

【③ボランティア活動の推進と管理】

- ・個人の自由な意志、考え、発想、行動するという自発的な行為を育み、既成概念に捕らわれない、自由で多様性に富んだ活動を推進する。また、その活動には、「利他性」「無償性」「継続性」といった要件を含んだものが求められる

4. 組織運営(全3項目)

理事会が決定する基本方針の下、学院長や副学院長、所属長が指揮命令を行うことができ、健全な学院運営の下、しっかりとしたガバナンスの下、マネジメントできる学院法人の構築

【①組織体制の強化】

- ・委員会や係の仕事、学年主任体制など役割分担を明確にし、指示系統を確立することで迅速な意思決定とアクションを可能にする

【②コンプライアンス管理の徹底】

・学院運営に関する法律、各種規定の遵守を徹底することで有給休暇の取得率向上や定時退社を促すと共に、教育現場・職場におけるハラスメントの防止対策などを強化する。また、カウンセラーを配置することで学生だけでなく職員のメンタルケアも行っていく

【③監督機能の強化】

・チェック機能と是正の枠組みを整えて、内部監査体制を強化することにより、コンプライアンスが確実に維持される職場環境を構築することで学院の透明化を図っていく。また、学院関係者評価や教育課程編成委員会の設置や学院機能評価を実施することで外部監査の強化も行う

5. 施設設備(全7項目)

学院施設の老朽化対策など安全・安心な施設環境の整備を計画的かつ着実に実施するとともに、学院における情報化を推進する

【①既存施設の修繕計画】

いつ、どのような修繕が必要で、修繕費がどの程度かかるかを明確にした「中長期修繕計画」を策定し、それに基づき修繕等を実施することによって、予防保全を実施することで既存建物・設備の高寿命化を図る

【②新規設備・施設の利用・設置計画】

活用していない土地に倉庫を増設することで既存の建物内のスペースを確保し、学生ロッカーや実技教室などのスペース拡大を検討していく。また、学生寮が遠方にあり学生管理が難しいため駐車場内に新設することも検討していく

【③高速通信環境の整備】

インターネット回線の利用増加に合わせて、回線の増強を実施していく

【④オンキャンパスとオフキャンパスの施設の充実】

オンライン専用受講教室等、オンラインによる学修環境の整備を検討していく

【⑤ICTを積極的に利用した教育の充実化】

Ipadやデジタル教材の活用方法を検討し、講義での活用や自宅学習での活用方法を確立していく

【⑥医療機器の老朽化による新規購入計画】

教育施設における室の担保と向上のため、旧型の教材を新しいものへ順次入れ替えを実施

【⑦学生管理機材の購入検討】

IDカードや顔認証による学生管理などを検討していく

6. 財務基盤(全3項目)

広報戦略の構築を図り、ブランド力向上を目指す

【①志願者の安定的確保及び質的向上】

高校生へ探究学習の機会を創出し、発掘・育成型の学生募集を展開するとともに、リハビリ専門職の職業理解を深め認知度を高めていく

【②デジタルマーケティングによる学院のPR活動の強化】

Webサイト、各種SNS、WEB広告の配信などによるパブリシティ活動をより活性化し、確実に広域な情報配信を実施することで潜在層への認知度を高めていく

【③ICTを活用した学生募集の充実化】

WEB上でのオープンキャンパスや選抜試験の実施（出願から発表まで）について個人情報を管理した上で確実に安全に実施できるように検討していく

7. その他

【経費の効率化】

さらなる財政基盤の安定の維持と教育活動、教育環境の充実と向上を目指す上から、新たな収益を図り、学内の経費節減、事務処理の軽減、学内資金の支出等を抑制していくことが必要となる

下関看護リハビリテーション学校

1. 教育

- 1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
- 2) 看護学科、理学療法学科の2学科があるという特徴を最大限に活かした教育への取り組み
- 3) 教育力の向上、教育教材の充実等学生満足度向上に取り組みの継続
- 4) 進級率・卒業率90%以上（退学者抑制）の実現を目指した取り組みの充実・強化
- 5) 国家試験合格率100%実現に向けた取り組みの充実・強化

2. 研究

教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進

3. 地域連携・社会貢献

地域のボランティア活動への促し、学校独自で実施するボランティア活動の継続

4. 組織運営

- 1) 職員の意識改革、業務分担見直し、効率化に寄与する設備・備品の充実当による業務効率化の促進
- 2) 感染予防体制の継続

5. 施設整備

学校および学生寮の施設・設備の改善

6. 財政基盤

定員確保による財政基盤の安定

八千代リハビリテーション学院

1. 教育

- 1) 専門的な知識技術の提供の前に、人間愛に基づき対象者の立場に立って対峙することが出来る人材の育成を目指し、質の高い教育実施体制を整備する
- 2) 入学前教育の実施、入学後の初年次教育など学生の主体的能動的学修を促進をし、クラス担任制での入学から卒業までの修学支援と相談体制を充実させる
- 3) 2023年4月からの入学定員増員に対しても教育体制を整備し、修学支援を拡充する
- 4) 教育成果を反映する進級・卒業率、国家試験の合格率の維持向上を図る

2. 研究

職務内容に係る研究、その成果についての学会への報告・発表に関して、オンラインでの報告も含めて奨励する

3. 地域連携・社会貢献

- 1) 近隣地域、自治体、各種施設、高校等と連携・協力し、社会貢献に寄与できるような活動を行う
- 2) 八千代市社会福祉協議会との災害時パートナーシップ協定に則り協力を行う

4. 組織運営

- 1) 学内情報を集積し把握できる体制を構築し、運営会議にて審議事項・報告事項を精選し運営戦略に反映する。また、各種委員会を置き、適切に効率的に業務を分担する
- 2) グループ病院や外部委員（学校関係者評価委員・教育課程編成委員）とも連携し、指摘事項等を学校運営に生かしていく
- 3) 定年による再雇用など今後の教職員の雇用形態の変化に対応し、教職員の育成、新規採用にも尽力する

5. 施設整備

- 1) 2023年からの入学定員増員計画に従い2022年1月より校舎の増築工事を始め、2022年12月に竣工予定。また、既存校舎も改修し、学生数が増えることでの教育機器・備品の補充にも対応し、整った教育環境を継続して提供できるようコスト面も考慮しながら整備する
- 2) 学生寮が2024年には竣工から15年が経過するので改修外装工事を予定

6. 財務基盤

- 1) 入学定員増員計画により2022年度に実施する2023年度入学者選抜試験からの継続的な入学定員を満たす学生確保が重要になる。
- 2) Webページなどの広告媒体の充実に努め、ガイダンス参加や訪問等で高校との連携を更に深め、オープンキャンパス等での来校を促し、学生確保を確実なものとする
- 3) 教職員がコスト意識を持ち、各経費の必要性・妥当性の検証によりコスト削減へ努める

福岡和白リハビリテーション学院

1. 教育

- 1) 法人が目指す人材像にむけた質の高い教育活動を実施する。
- 2) 今後の技術発展を踏まえつつICTを使った教育方法を模索し充実を図る。

2. 研究

職務内容、臨床実践に付与できる研究と発表、報告について奨励する。

3. 地域連携・社会貢献

地域・社会との連携を推進し社会貢献活動を積極的に行う。

4. 組織運営

- 1) ガバナンス体制の強化
- 2) 大学との連携

5. 施設設備

教育のための施設設備の整備

福岡水巻看護助産学校

1. 教育

- 1) 職業的アイデンティティの確立を目指す
- 2) 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善を図る

2. 研究

教育活動及び臨床実践に寄与できる研究を推進する

3. 地域連携・社会貢献

地域・社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う

4. 組織運営

事業計画に沿った学校運営を推進する

5. 施設設備

設備の状況に対応した施設マネジメントを計画的に実施する

6. 財務基盤

- 1) 定員の充足を図る
- 2) 適正な予算計画を立案し運用する

武雄看護リハビリテーション学校

1. 教育

専門学校が目指す養成する人材像に向けた質の高い教育活動を目指す

2. 研究

臨床実践に寄与できる研究を推進する

3. 地域連携・社会貢献

地域、社会との連携を推進し、社会貢献活動を積極的に行う

4. 組織運営

理事長を中心とした経営を行うためのガバナンス体制の強化

5. 施設設備

質の高い教育を目指すための計画的な施設設備の拡充及び整備

6. 財務基盤

学生確保 適正化を目指した経費の効率化

6. 各校の事業計画書

近年における少子化等の影響もあり、私立学校をめぐる環境は厳しさを増している。学校法人巨樹の会の各校では、地域に必要とされる学校であり続け、新しい時代の要請に応じた学校づくりを目指し、各校にて事業計画を策定した。

- ・ 令和健康科学大学
- ・ 福岡看護専門学校
- ・ 小倉リハビリテーション学院
- ・ 下関看護リハビリテーション学校
- ・ 八千代リハビリテーション学院
- ・ 福岡和白リハビリテーション学院
- ・ 福岡水巻看護助産学校
- ・ 武雄看護リハビリテーション学校



日本の医療を変える大学へ

1. 教育

特色ある実践的なカリキュラムを円滑に実施し、ICTを活用した教育内容、方法の充実を図る。

2. 研究

教員個々の研究基盤の確立を目指すとともに、学内での共同研究を推進する。

3. 地域連携・社会貢献

地域の実情に沿った活動の具体的な推進方法を検討する。

また他大学との連携を推進する。

4. 組織運営

学長のリーダーシップのもと、各種委員会を発足させ、構成員が積極的に参画する体制を構築する。また大学院構想の推進体制を構築する。

5. 施設整備

キャンパスの改修、改装を完了し、教育研究の充実のため、施設設備の不断の点検を実施する。

6. 財務基盤

学生獲得のための広報活動を積極的に推進するとともに、経費の効率化を不断に図ることで財政の健全化を図る。



学習者一人ひとりに目を向けた教育の推進
～豊かな人間性、責任感のある看護専門職の育成を目指して～

1. 看護実践力の向上

- 1) 教育機材の充実を図り、社会に貢献できる実践能力を身につけた有能な人材の教育を行う。
 - (1) 臨地における気づきの意識化と援助後のリフレクションの強化
 - (2) シミュレーター(シナリオ・フィジコ等)の活用、教育方法の工夫
 - (3) 技術教育の強化とあり方の検討
 - (4) 教育力向上に向けた教員研修の積極的な受講

2. 学生満足度向上の実現

- 1) 学生満足度の向上のための環境調整
- 2) 自ら学び探求していく教育方法の工夫

3. ICTを活用した教育の推進

- 1) ICTを活用した授業・実習指導の工夫
- 2) 効果的なWi-Fiの活用

4. 各学年の履修率・卒業率向上のための取り組みの実施

- 1) 国家試験合格率100%実現に向けての各学年の取り組み強化
- 2) 主体的学習の支援、学習方法の確立、効果的なグループ活動
- 3) 臨地実習での学びの実感とタイムリーな指導
- 4) 確実な単位修得への支援
- 5) カウンセリングの効果的な活用、学生個々とのかかわり

5. 社会貢献活動及び地域連携の充実

- 1) 福岡和白病院との共同活動(健康フェスタ・職場体験等)
- 2) 地域清掃活動

6. 効果的な広報活動の展開

- 1) ホームページ等を活用して本校の活動を情報提供

7. 経費削減

- 1) 業務の改善を図りながら、経費の見直しを継続して実施

8. 業務効率化の推進

- 1) 業務分担を再考し、ワークライフバランスを改善
- 2) 新しい事務組織との共働

9. 職員力の向上

- 1) 個人目標の設定と評価
- 2) 各科の特徴に合わせた教育目標の設定と評価
- 3) コミュニケーション能力とリサーチ力を駆使した組織づくり



地域から信頼される学校作り

1. 学校教育力の向上

- 1) 確かな学力の育成
- 2) 授業の質の向上
- 3) ICT教育の推進
- 4) 教育の資質能力の向上に向けた研修会等の実施

2. 社会の要請に応える研究を推進し、高度な実践能力を有する専門職者の養成

- 1) 医療の発展に貢献する研究の推進
- 2) 専門職としての高度かつ最新の知識・技能の修得

3. 地域貢献・社会貢献

- 1) 地域の中学・高校との交流及び部活動支援
- 2) 学校の教育資源・設備を活用した地域との交流促進
- 3) ボランティア活動の推進

4. 組織運営システムの体制強化について

- 1) 意識統一のための会議の定例化
- 2) 業務分担の明文化

5. 教育環境の整備

- 1) 教育上の必要性に対応する施設・設備の整備
- 2) 感染症、自然災害に対する対策

6. 安定した財務基盤の維持

- 1) 定員充足に向けた取り組み
- 2) 費用対効果の観点から経費の削減を図る
- 3) 業務効率化に向けた取り組み

信頼され、選ばれる学校
学生の学力強化とICT教育、多職種連携教育(IPE)の強化
～ ひとりひとりを大切にしながら ～

1. **創造力・実践力の向上を目指した教育の推進**
 - 1) 両学科協力IPEの充実
 - 2) シミュレーション教育の充実
2. **学生満足度向上に向けた取り組み**
 - 1) 教員の教育力向上
 - 2) 教育教材の充実
 - 3) 進路(就職)支援の強化(理学療法学科)
 - 4) 感染予防対策の充実
 - 5) 学校および学生寮の施設・設備の改善
3. **研究**
 - 1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進
4. **ICT環境の運用**
 - 1) ICT環境・設備の改善
 - 2) ICT教育力の向上
5. **退学者抑制の取組み(進級率・卒業率90%以上の実現)**
 - 1) 学生の情報共有と問題の確認と問題に応じた早期対応
 - 2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携
 - 3) 保護者との連携
 - 4) 学習支援強化
6. **国家試験合格率100%実現に向けた取り組み**
 - 1) 学年に応じた学習指導
 - 2) 教員の指導力強化
 - 3) 自己学習力の強化
7. **定員充足の取組み**
 - 1) インターネット、SNS等による情報発信の強化
 - 2) 高校・大学訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加
 - 3) 高専連携の強化(部活支援活動、キャリア教育協力)
8. **地域連携の充実に向けた社会貢献の推進**
 - 1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰
 - 2) 各学年清掃活動の継続
9. **業務効率化の促進**
 - 1) 業務効率改善に向けた職員の意識の改善
 - 2) 学内業務の見直しと適切な業務分担
 - 3) 効率化に伴う設備の充実

～新しい生活様式に適った教育環境の整備と職業実践教育の推進～

教育教材の充実・環境整備・感染症対策に配慮した教育体制の構築に努め、学生満足度の向上を図る。医療・社会のニーズに応えるべく入学定員の増員を計画し、職業実践教育をより推進する。

1. 教育機材・管理備品の購入

- ・ 入学定員増員準備に伴う追加補充
- ・ 不備品買替え

2. 環境の整備

- ・ 感染症拡大防止対策としての環境整備継続
(来校者の把握、検温、抗原検査キット活用等)
- ・ 手指消毒・手洗い・マスクの徹底
- ・ 集金サービス(銀行引き落とし)利用による学生負担軽減
- ・ 学生寮Wi-Fi環境の整備、不備品の買替え

3. 学外学習機会の確保、整備

- ・ 感染対策徹底での学外学習やボランティア活動の実施
- ・ 臨床実習施設登録拡充

4. ICTを活用した教育の推進

- ・ タブレットを効果的に活用すべく、教科書への電子書籍取り入れ
- ・ 緊急事態宣言時などにも速やかに遠隔授業を実施できる態勢整備
- ・ クラウドを利用した就職支援

5. 効果的な広報活動の展開

- ・ R4年度入学生へのタブレット・ペンシル贈呈、ICT教育・遠隔授業に対応
- ・ 入学定員増員計画に向けたホームページ、学院パンフレットの充実
- ・ 動画を活用したWEB展開やオンラインオープンキャンパスの活用
- ・ ガイダンスへの積極的な参加と高校訪問での連携と情報共有

6. 入学定員増員に向けて

- ・ 新校舎の建築・現校舎の改修
- ・ 認可申請業務の推進
- ・ 学生増に対応した教育体制整備

～大学との連携と閉校に向けた整備～

1. 新規事業

1) 大学との連携

- ・大学の開学、閉校に向けハード・ソフト両面でスムーズな移行ができるよう連携していく

2. 継続事業

1) ICTを活用した教育の充実

- ・今後の技術発展を踏まえつつICTを使った教育を模索し充実を図る

2) 退学防止委員会

- ・学生の抱える様々な問題を早期に拾い上げ学業が継続できるよう支援していく

3) 国家試験対策委員会

- ・初年次より国家試験を見据えた対策を実施し国家試験100%を目指す



学校法人巨樹の会

福岡水巻看護助産学校

社会に貢献できる人材育成 ～カリキュラム改正による教育内容の充実～

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
 - 1) シミュレーション教育の充実
 - 2) 看護教員の教育実践力向上
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
 - 1) 学習環境の整備
 - 2) 教育教材の充実
 - 3) 学生との援助的関係の確立
3. ICT環境の運用
 - 1) 共同学習としてのICT教育の推進
 - 2) ICT教育力の向上
4. 進級率・卒業率向上への取り組み
 - 1) 職業的アイデンティティの確立
 - 2) 保護者との連携
 - 3) 各学年、年1回以上の保護者会の実施（オンラインを活用）
5. 国家試験合格率100%に向けた取り組み
 - 1) 1年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築
 - 2) 修学指導への取り組みの強化
6. 定員充足への取り組み
 - 1) 学生募集、広報活動の強化
 - 2) 社会の状況にあわせた多様な学校説明会の実施（オンラインを活用）
7. 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進
 - 1) 地域清掃（通学路の清掃等）の継続
 - 2) 地域主催のイベント参加への推進
8. 業務効率化の促進
 - 1) 職場環境の改善
 - 2) 業務内容に応じた勤務形態の多様化
9. 就職支援・キャリア支援
 - 1) 就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り



武雄看護リハビリテーション学校

全校一丸となりブランド化を図り、魅力ある信頼される学校創りに邁進す
～全てにパーフェクトを目指して、活力と活気ある学校に～

1. 重点施策事業

1)医療人としての人間性・人間力の育成

- ①基本的な生活習慣の確立と自主的な学習活動の在り方及びICT教育の定着
- ②学生を前面に出していく教育活動の展開(自主性・コミュニケーション能力の育成)
- ③社会活動への積極的な参加や学科・学年間連携による情意教育の実施

2)進路保障100%達成

- ①履歴書の添削と小論文指導・面接指導の充実(オンライン面接含む)
- ②関連病院との就職に向けた連携強化と訪問見学、就職説明会の実施と早期の取り組み

3)国家試験全員合格

- ①1年次より学習指導体制の構築と学習習慣の確立
- ②学生の能力に応じた早期からの個別指導対応
- ③教員間での問題作成や指導の在り方の検討と研修会の実施

4)退学・休学者をなくす

- ①定着率100%達成のために、担任・副担任の連携と個別面接・カウンセリングの実施
- ②ホームページやメール機能も活用した保護者との連携強化と学校活動状況の配信と連絡体制

5)教職員の資質向上

- ①教育方針の達成のために、共通理解への学校長講話と朝礼や会議の効果的な在り方
- ②教育力向上のための各種研修会、講習会の実施と受講への積極的取り組み
- ③専任教員の強みを生かした魅力的な講義実施と教育システムなどの教員間評価の活用
- ④専任教員による国家試験対策と就職支援指導力の養成と強化

6)魅力ある指導実践(ICT活用等)

- ①ICT環境のより効果的な活用と情報機器の更新
- ②図書室の書籍購入と演習の充実を図るための教材購入
- ③学校の特徴を生かした職種間連携の推進

7)高校との信頼構築で定数確保(少子化対策)

- ①学校単独のガイダンスの開催と高校部活動への援助と支援や在校生からの近況報告
- ②高専連携・地域密着型の広報活動の充実
- ③ブログやSNSを活用した学校情報の迅速な配信
- ④受験業者とマスメディアを適切に利用した高校への情報提供

8)地域、行政と連携したボランティア活動

- ①特別支援学校や病院行事とスポーツ活動や老人クラブへの参加での地域貢献
- ②市町村や社協との連携によるボランティア活動推進

9)教育費等の削減と業務の効率化

- ①教育機材や補助教材の適切な購入
- ②消耗品や光熱水費の節約への取り組み(ペーパーレスの推進)
- ③感染対策設備と用具の購入での防止対策
- ④県の補助事業を活用した学校予算への反映

10)学校環境整備

- ①通学困難者の増大に伴い、学生寮(男子・女子)確保の実現と駐車場の整備
- ②災害にそなえた職員・学生への危機管理体制強化と連絡体制の徹底
- ③老朽化や自然災害に伴う施設の整備

11)開校15周年に向けての準備作業(整備)

- ①式典準備作業の計画とこれまでの成果の整理と毎年の更新



学校
法人 巨樹の会

～医療系学科だけの学校法人～